学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://2nd.geocities.jp/g_press2/index.html
発行・編集人　宮下秀毅
年間500円

# 奨学金の採用状況

## 採用率従来並み

### 平成22年度学習院大学奨学金

平成22年度「学習院大学奨学金」及び「日本学生支援機構奨学金」の、申請者数と採用者数が発表された。「学習院大学奨学金」の採用率は、昨年の63%から68%まで微増。他方で「日本学生支援機構奨学金」の採用率は前年の78%からやや減少して75%となり、採用状況は昨年度と類似した結果となった。

本学には、経済的支援と学業奨励を目的とした奨学金制度が設けられている。奨学金は大きく2つに分類される。卒業・修了後に返還義務のある「貸与型」と、義務のない「給付型」だ。また、申請方法により「公募制」と「推薦制」に区別される。本学の主な奨学金は、次のようになる。

【公募制貸与型】
- 学習院大学奨学金
- 日本学生支援機構奨学金（第一種・第二種）

【公募制給付型】
- 学習院大学学費支援給付奨学金
- 学習院大学海外留学奨学金
- 学習院大学教育ローン金利助成奨学金

【推薦制給付型】
- 学習院大学学業優秀者給付奨学金
- 安倍能成記念教育基金奨学金
- 学習院末松奨学基金奨学金
- 関育英資金奨学金

これらの中でも「学習院大学奨学金」と「日本学生支援機構奨学金」は、例年申請者が多い。いずれも公募制で貸与型なので、採用枠が広いためだ。尚、申請者・採用者数は表の通り。

今年度の「学習院大学奨学金」の申請者は、昨年の203名から約15%減少して174名。採用者は、微減して120名となったが、採用率は昨年を若干上回った。一方「日本学生支援機構奨学金」は、576名が申請した内、436名が採用され、昨年とほぼ同じ状況となった。今年の傾向としては、厳しい経済状況を反映してか、給付型奨学金の申請者が著しく増加したことが挙げられる。

奨学金を申請・継続するには、一定の「家計基準」や「成績基準」を満たさなければならない。加えて、各種説明会への出席や書類提出などの義務を果たすことが条件となる。また、家計状況が急変したと認められる学生は、緊急貸与の申請が出来る。よって、早めに学生課へ相談に来てほしいとのことだ。

最後に、貸与型は返還が円滑に行われないと、次の貸与に重大な支障を来すことを肝に銘じなければならない。後の返還のことを考慮し、奨学金の目的を充分に理解した上で借りることが、強く求められる。

「学習院大学奨学金」及び「日本学生支援機構奨学金」の申請・採用状況

| 区　分 | 平成22年度 |  |  |  | 平成21年度 |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 大学奨学金 |  | 日本学生支援機構 |  | 大学奨学金 |  | 日本学生支援機構 |  |
|  | 申請数 | 採用数 | 申請数 | 採用数 | 申請数 | 採用数 | 申請数 | 採用数 |
| 法学部 | 27 | 19 | 94 | 71 | 33 | 24 | 97 | 71 |
| 経済学部 | 40 | 23 | 144 | 115 | 48 | 30 | 136 | 107 |
| 文学部 | 54 | 32 | 160 | 131 | 69 | 41 | 150 | 115 |
| 理学部 | 19 | 12 | 54 | 42 | 32 | 13 | 93 | 72 |
| 学部計 | 140 | 86 | 452 | 359 | 182 | 108 | 476 | 365 |
| 法学研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 政治学研究科 | 0 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 経済学研究科 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 経営学研究科 | 0 | 0 | 7 | 4 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 人文科学研究科 | 7 | 7 | 52 | 27 | 6 | 6 | 34 | 33 |
| 自然科学研究科 | 3 | 3 | 37 | 20 | 0 | 0 | 38 | 28 |
| 大学院計 | 10 | 10 | 101 | 55 | 6 | 6 | 77 | 64 |
| 法科大学院 | 24 | 24 | 23 | 22 | 15 | 15 | 20 | 20 |
| 合　計 | 174 | 120 | 576 | 436 | 203 | 129 | 573 | 449 |

平成22年６月18日現在

## 日米交流の架け橋に

### 駐日大使ラウンドテーブル

「I guess so good question for me today?」。どこかユーモアを含んだ口調に、参加者から笑いが漏れる。学生を覆っていた不安気な表情は、その言葉によって綺麗に消し去られた。

5月28日、アメリカ合衆国の駐日大使であるジョン・V・ルース氏が本学を訪れた。ルース氏は法学部の福元教授がホストを務めるラウンドテーブルに参加。本学の学生達と時々通訳を交えながらも、議論のほとんどを英語で行った。氏は駐日大使に任命される以前は、弁護士の職に就いていた。技術と生命科学関連の企業を相手にする、シリコンバレーの法律事務所、Wilson Sonsini Goodrich & Rosati の最高責任者を務めていたのだ。そのような経歴を持つ氏であったが、ラウンドテーブルに参加した学生には、親密かつ紳士的な態度で接していた。

学生からは、最近の日本における国政最大の関心事、沖縄の基地問題についての質問が目立った。その他にも、近年成長の著しい中国についての問題に対する関心事も、ルース氏に投げ掛けられる。それらの質問に対して、納得するように時間を掛けて大使は回答した。更に、予定していた会議の開催時間も、ルース氏の意向で延長。氏は更に多くの学生からの意見を求め、また学生も積極的に質問を試みた。

ルース大使は議論の中で、日本とアメリカ、そして中国の、主要国についての国際関係にも見解を述べた。彼はその中において「日本とアメリカの関係は非常に重要です。アメリカにとって、中国も含めて日本は良いパートナーです」と言う。

ラウンドテーブルの最後に、大使は参加者との記念撮影、しばらくの間の雑談を行った。国際的な意思疎通を行うための、重要なツールとしての英語。その必要性を、ラウンドテーブルに参加した学生達は実感した。


ルース氏とラウンドテーブル参加者

## 文章の基礎から

### 図書館セミナー

6月21日、大学図書館セミナー2010春「レポートの書き方ことはじめ」が、本学中央教育研究棟403教室にて行われた。講師として、早稲田大学留学センター助教の太田裕子先生をお迎えして開かれた。約50名の受講者が参加し、多くは1年生である。

本セミナーの狙いは、大きく3つに分けられていた。1つ目は、レポートがどのようなものかを教わり、性質、構成、形式を学ぶ。レポートでは自分で立てた問いに対し、自ら答えを出すことが重要だ。自分で絞り込んだテーマを問いの形で表現し、レポートの目的を明確に表す。

2つ目は、レポートを書くプロセスを学んだ。初めに、教員から示された課題に答え、理解することが第一である。自分1人で考え文章にするだけでなく、他者と意見を交換しアドバイスを貰うことが重要だ。更に、文献からの知識や情報の取得を繰り返すことが大事である。

3つ目は、学術的な文章とはどのような文であるかを知ることだ。学術的な文章を書くためには、文末表現の統一や、文章全体の体裁を整えたりすることが必要である。また、主張の根拠を示すことや、一文一義で書くことも重要である。

本セミナーでは学術的に文章を書くために、演習が行われた。初めに、文章を読み不適切な箇所を指摘する練習を行う。次に、本セミナーに参加する課題として「学習院大学」をテーマに書いた400字の作文を他者と交換した。そして文章を検討し合う。その後、質疑応答の時間が設けられ、幕を閉じた。

## 素朴な疑問

### 碑が語る名馬の生涯

本学のキャンパスには、全部で18の文化財及び史跡がある。その中で、普段足を運ぶことの少ない馬場付近にも、1つの石碑が存在する。その名は「乃木号の碑」。ここには、明治40年に10代目学習院院長に就任した乃木希典の愛馬「乃木号」が祭られているのだ。

碑の所在地は、計算機センターと馬場の間の小道である。ここは木々が日差しを遮ってくれるので、涼しみながら馬場を一望することが出来る。

碑と馬に関しての詳細は以下の通りだ。乃木号は、日露戦争期にロシアの将軍ステッセルから乃木院長が譲り受けた名馬「壽号（すごう）」の仔であった。1911年に生まれ、壽号によく似た芦毛の仔馬だったために、乃木院長に贈られたのだという。

その後、乃木号は本学の厩舎で飼育され、大正元年に乃木院長が亡くなった後にも、学生らの馬術練習などに貢献し続けてきた。1937年に生涯を終え、本学卒業生団体「桜友会」の有志によって、石碑が建てられた。

今も時々誰かが供養しているのだろう。碑には花が供えられていた。乃木院長に愛され、長年本学に尽くした乃木号の功績がうかがえる。同時に、本学の史跡のエピソードに歴史を感じた。（菅）

## 2・3 下町を歩く夏

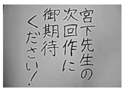
「谷根千（やねせん）」と呼ばれる地域を知っているだろうか。谷根千を歩けば、情緒豊かな下町の魅力を存分に味わえるはずだ。

## 紙面紹介

## 4 アメフト部ドロー

アメフト部の対甲南大戦が開催された。序盤は本学が試合をリードする。しかし相手も譲らず、17―17で引き分けとなった。

## 月刊少年ミヤシタ



「ぐはっ…さすがに8回は無茶だったようだ…俺はもう限界だ…後はお前らに任せるぜ。大新の未来を…頼んだぞ」

『月刊少年ミヤシタ』は、今号をもって打ち切りとさせて頂きます。（雷）

## 学習院 研究最前線

### 学問研究の「いま」

PROFILE
83年京都大学教育学部教育心理学科卒業。89年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程退学。07年より現職。

◇　◇　◇

先生の研究分野は、臨床心理学です。症状や悩みを抱える人に対してカウンセリングで心理療法を実践し、研究をされています。今回はその中で、睡眠時に見る夢に関するお話を伺いました。

（取材・構成　加藤絵梨香）

## 「夢の治癒力とポストモダン」

### 文学部心理学科　川嵜　克哲教授

## 無意識が届ける伝言

**夢の治癒力**

心理療法に夢を活用している先生は、来談者に見た夢を語ってもらうことでその人の持つ問題の解決に尽力している。では、心理療法において夢はどのような働きを持つのだろうか。

「これは私の先生の事例なのですが、有能なビジネスマンが鬱状態になってしまいました。その彼が治療中にハートマークが1番強い設定のトランプゲームをする夢を見ました。そこでハートの手札がないことを不利だと思い、焦ったと言うのです。一見意味が分かりませんが、カウンセラーの『ハートがないと負けてしまうのですね』という言葉で、彼は自分が切り捨ててきた感情や人との情緒的な関係に気付き、ショックを受けました。それから段々と生き方が変わっていったのです。こういう人に『人間関係も大事にした方が良いですよ』という助言は、余り効果を持たなかったでしょうね」

夢には自身の内から現れてきたという感覚がある。そのため、夢の意味が分かると、本人に変化をもたらす効果が生じやすくなるのだ。

**現代人と古代人の違い**

更に先生は、現代の人と古代・中世の人が見る夢の差異に注目している。我々が知り得ない古代人の夢については、文献から探っていくそうだ。

「昔に遡る程、夢の中に神様のイメージが直接的に現れていた印象があります。逆に近代では、夢はよく分からないものだとか、意味がないものと見なされがちです。それは、神など超越的な存在に対する人の態度、精神構造が変わったからではないでしょうか」

古代人にとって夢は神託であり、それに従うことは自明であった。この結果、超越的なものを受け入れた主体は変化する。その一方で、現代人においては自己決定が重視される。自己は同一性を保つものであり、それを変化させるものに対しては排除がなされる傾向にあるのだ。しかし、自己の同一性にフィットしないもの、自己から排除されたものが問題となってくる場合も多い。

「自分らしさを曲げないという思考故に、受け入れ難くも自分を成長させてくれる可能性が、歪んだ形で現れる場合があります。そのような人が心理療法に来る訳ですが、その時に夢が助けになることがあるのです」

例えば、人がよく見る「追われる夢」は、自分が排除したものが自己の中に浸透しようとしている姿だと解釈される。しかし、この種の夢も最近の人は余り見なくなっているという。

「ポストモダンな社会になって、再び『私』のあり方が変わってきたのでしょう。メールアドレスを複数所有していたり、その変更も容易だったりするように現代人の『私』の特徴は、次々に『私』を捨てていけることです。その変化に即応して夢もまた変わってきているように思えますね。ポストモダンと夢の関係は、とても関心のあるテーマです」

**合理性とそれに収まらないもの**

ネット社会の影響で『私』のあり方が曖昧になってきていると先生は言う。そのような現代を生きる我々学生に対して、メッセージを頂いた。

「まずは合理的に考える力を鍛えてほしいですね。それはとても大事です。同時に、論理に収まらないことにもアンテナを向けて頂きたいですね。このどちらかがノーマークになると、人として安定が保てないと思います」

川嵜教授の見解は、合理的な思考だけには留まらない世界の広がりを示してくれる。先生の果てしない夢の探求は、まだまだ続く。

## 情報特急便

**第4回就職セミナー**
女子学生講座1（働く環境と法整備・ワークバランス）
日時：7月1日（木）・8日（木）18時～（90分）
場所：西5号館B1教室
対象：女子学生
講師：外部講師

**第5回就職セミナー**
日経講座ガイダンス
日時：7月5日（月）18時～（90分）
場所：西5号館B1教室

**第6回就職セミナー**
読売講座ガイダンス
日時：7月6日（火）18時～（90分）
場所：西5号館B1教室
講師：夏目孝吉氏

**第15回東アジア学次世代フォーラム**
1945～1949年日本の雑誌の台湾に関する報道
日時：7月21日（水）18時～
場所：北1号館4階
東洋文化研究所会議室
講師：許毓良氏
備考：参加自由・無料・通訳あり

**第7回就職セミナー**
日経講座（3日間・全5回）
日時：8月2日（月）
～8月4日（水）
場所：北1号館308教室
備考：事前申し込みが必要
詳細は別途告知

## 街を清潔に

### ごみゼロデー

豊島区では、毎年5月30日を「ごみゼロデー」として、区内全域の一斉清掃活動を呼び掛けている。5月31日には不法投棄パトロール、喫煙マナーアップキャンペーン、落書き消去活動などが行われた。今年で11回目を迎えるこの活動には、新たに「ガム取り」が加わる。また、区役所庁舎ロビーにて、リサイクルなどの普及啓発パネル展示が行われた。

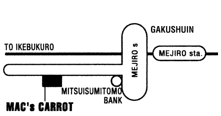
本学ではこの活動に、大学祭実行委員会・応援団・学生相談所・学生放送局・輔仁会雑誌編集委員会の総勢40名が参加。目白駅周辺、目白通り及び、椿坂の清掃を行った。

喫煙マナーアップキャンペーンでは、歩き煙草やポイ捨てについて、マナー向上を訴えた。このキャンペーンには「としまクリーンサポーター」制度に登録している企業が参加。道行く人々に、PR活動を実施した。「としまクリーンサポーター」とは、企業・団体が、自分達の手で街を綺麗にしていく取り組みである。自主的な清掃活動を行っており、現在67団体が登録している。

6月5日までの「リサイクル・ごみ減量週間」。この期間中に、環境美化活動が実施された。爽やかで暮らしやすい安全・安心な街作りを目指し、資源リサイクル・ごみ減量推進の啓発を行った。

## 明窓浄机

3年生になった現在、今までの大学生活を振り返ってみたい。それは、ほとんどが大学新聞社の活動で占められていた。忙しい毎日だったが、お陰で自堕落にならずに済んだ▼弊社の活動ではまず、読者へ価値ある情報を分かりやすく正確に伝えなければならない。その上、綿密な取材を行い、情報の裏付けを確実に取る必要がある。更に、取材先の都合に合わせてスケジュールの管理をするのも重要だ。そしてそれらを全うするために、自分の役割を果たす責任感も求められる▼ここでの経験は他の場でも活きてきた。例えばレポート課題では、独りよがりな文章にならないように注意を払えるようになる。また、取材での話し方を参考にして、教授への質問でより詳しい話を聞き出せるようになった。それに加え、ゼミやアルバイトといった共同作業では、決して迷惑を掛けないという心持ちで臨むようになった▼しかし、こうして自分を成長させてくれた新聞社を、私は今号で引退する。後輩に道を譲らなければならないからだ。心惜しいが、今は達成感が心の中で1番大きい。更に時間が経てば、それは私の自信に変化するはずだ。ここで得た経験や自信を自分の支柱にしていき、今後に活かしたい。（呪）



谷中、根津、そして千駄木。これらは通称『谷根千』と呼ばれ、人々に愛されてきた下町だ。時には忙しい毎日を忘れ、その風情に浸るのはいかがだろうか。

# あきんどの記憶
## 旧吉田屋酒店

本学から手近な距離にも、江戸の営みを彷彿させる場所があるのを御存知だろうか。根津駅を降り、古い街並みを脇に見ながら言問通りを進むと、一際趣を感じる建造物が目に入る。それが、**旧吉田屋酒店**だ。

同店は、かつて江戸時代から昭和61年まで、谷中6丁目で実際に営業していた。明治43年に改築された店舗が台東区により移築され、現在は下町風俗資料館の付設展示場として桜木2丁目に公開されている。建物には酒屋ならではの工夫が凝らされており、先人達の技術力を感じた。例えば、揚戸と呼ばれる出入り口の格子戸だ。これは上げ下げして開閉するため、間口を広く使うことが出来る。そのため、商品の運搬・販売にも都合の良い造りだ。他にも、軒下に桁を張り出す「出桁造り」を施すことで、商家特有の長い庇を支えている。

このように、外観から古き良き日本の趣を漂わせている当店。一歩足を踏み入れると、百余年の時を遡ったかのような感動に浸れる。中に入ってまず目に飛び込んでくるのは、店の正面に堂々と構える帳場だ。ここには、商品の数量や金額など、重要事項を記した大福帳や銭箱が置かれていた。商談もここで行われていたため、商家にとって最も大切な場所だったという。次に周囲を見回してみると、当時の酒屋の様子を連想させる品々がずらりと並ぶ。酒樽や徳利、チラシなどが、商品棚に所狭しと収められていた。実物を見ると、商いが行われていた様が目に浮かんでくる。

そして、数ある展示品の中でも来館者の多くが足を止めて見入っていたのは、美人画ポスターだ。現在の広告では、ほとんどに写真が用いられている。しかし、人の手によって描かれるからこそ込められる温もりもある。そんなことにも気付かされるだろう。

昔懐かしい雰囲気が漂う谷根千。道を歩くだけで、どことなく心安らかになるかもしれない。更にこの地を訪れることで、懐古の情をより深められるだろう。

取材時も老若男女問わず、多くの人がもの珍しそうに展示品に目を向けていた。ほんの束の間でも、かつての江戸商人の活躍に思いを馳せてみてはいかがだろうか。（福井麻斗）

開館時間…9時半～16時半
休館日…月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
入館料…無料

古色蒼然と佇む遺構

# 絶品の組み合わせを求めて
## はん亭

漫画やテレビにもよく登場する不忍池に近い、地下鉄千代田線の根津駅付近に出掛けてみよう。下町情緒漂うこの街には、沢山のお食事処があり、日本古来の文化や歴史を感じながら、楽しく散歩出来る。今回は、駅を降りてすぐ、不忍通り沿いの**はん亭根津店**にお邪魔した。

昭和53年に創業した当店は、串揚げの専門店である。店舗には、文化財指定を受けた明治時代の爪川屋の建物を使用しているそうだ。店内は、和が感じられる心安らぐ空間だ。そんな雰囲気のためか、串揚げを心ゆくまで楽しめる。メニューは全36種類。串揚げから、ご飯や味噌汁、漬物、更には旬の果物を使ったデザートと、実に豊富である。その中で、ランチメニューの昼膳（3150円）を食してきた。これは、谷中生姜の肉まきなどの串揚げ8種・前菜2品・ご飯と赤だし味噌汁と漬物、又は岩海苔のお茶漬けのセットだ。これに、キャベツと生野菜のスティック・アイスクリームかシャーベットのデザートが付く。前菜から始まる色彩鮮やかな本メニューは、視覚と味覚の両方で楽しむことが出来た。そして膳の構成はバランスも良く、揚げ物に疲れたら箸休めに野菜を食べたりと、全く飽きずに完食出来た。

ここで食べ方についてだが、ソースや塩、肉入り味噌を付けて頂く。肉系の串揚げはソース、魚介・野菜系は塩、生野菜は味噌で食べるのがお勧めだと教えて頂いた。特に味噌は野菜の旨味を引き立て、食べやすく、格別であった。前記の食べ方を参考にしながら、自分なりの食べ方を模索するのもまた、楽しみの1つではないだろうか。

さて、一通りランチを楽しんだところで、支配人の野沢高行さんにお話を伺った。最初にお店のこだわりを聞いたところ「まず揚げ物の色を出すために、油の温度を低くしています。加えて、豊富な種類の串揚げを数多く食べられるように、油の質を軽くし、1本1本を軽くしています」と答えてくださった。更に「料理の美味しさだけを追求するのではなく、環境にも配慮しています。その一環として、ごみの分別や油の処理にも気を遣っています」とのこと。そして、学生へのメッセージも頂いた。野沢さんは「日本にしかない味の文化、季節感を大事にする日本の文化を感じてほしいです」と力強く語ってくださった。

谷根千の近辺には、人々との触れ合いを大切にする職人達が集う店が多々ある。はん亭もその1つだ。繁華街も悪くはないが、たまに下町を歩いてみると新しい発見が必ずあるはず。きっと素晴らしい時間を過ごせるだろう。（山田晃）

営業時間…11時半～15時（14時L.O.）
17時～23時（22時L.O.）
定休日…月曜日（祝日の場合は翌火曜日）

串揚げと色鮮やかなランチ

# ほのぼのリラックス空間
## ねんねこ家

三浦坂を登ると、道路の両側に猫グッズが沢山置かれた建物が現れる。ここが猫好きには堪らない店、**ねんねこ家**だ。閑静な住宅街の中で一際異彩を放つその光景に、誰もが足を止めてしまうだろう。

当店は、平日は雑貨の工房となっており、週末だけ営業している隠れ家的な存在だ。以前は鍼灸院であったが、今ではその面影が残らない程、猫関連の物で一杯である。谷根千には、猫グッズの店が至る所に点在しているが、ここが他と違うのは、実際に本物の猫がいることだ。室内では、猫7匹が私達を出迎えてくれる。だが、気まぐれな彼らにはいつでも会える訳ではない。だからこそ、会えた時の嬉しさは格別なのだろう。彼らの自由奔放な接客姿を眺められるのが、この店の魅力である。

店内には、工房で作られたオリジナル雑貨が所狭しと並んでいた。商品は、くすっと笑ってしまう小粋なギャグが入ったポストカードから、食器・衣類に至るまで実に様々だ。部屋の隅々まで溢れる猫の装飾や愛らしい商品は、見ているだけで飽きない。

奥の和室と2階は、ゆったりと休憩が出来る喫茶スペースとなっている。この部屋の中も、招き猫や置物で埋め尽くされていた。座席の近くには、見ていて和む猫の雑誌や写真があるので、それらを眺めながら待ち時間を充実させよう。料理においても、この店のこだわりが光る。ランチタイムにはニャンカレーセット（1500円）がお勧めだ。これは名前の通り、ご飯の部分が猫の顔型に形作られている。周りのルーで顔に模様をつけて食べると、一段と楽しく食べられるだろう。何を頼むか迷ったなら、お菓子を一通り味わえる全部セット（1000円）がお得だ。出て来るのは、ねんねこクッキーや招き猫最中といった、猫をモチーフにした盛り合わせだ。どれも見た目が可愛らしく、食べるのが勿体ない程であった。特に名物の猫の手白玉は、もちもちした白玉と、大粒で程良く甘い餡が合わさった、休憩にぴったりの逸品だ。また部屋の一角には、この店で飼われていた亡き猫達を偲ぶコーナーも設けられ、生前の写真が飾られている。ここから店長の、互いに店を支え合った彼らへの深い愛情が感じられた。

ねんねこ家は、今年で15周年を迎える。これは、魅力的な猫達や商品などが、多くの人を惹き付け、長年愛されてきたからだろう。今の梅雨の期間中は、猫が室内にいることが多いそうだ。そのため、人気の当店へ訪れるのはこの時期が狙い目だ。是非、このチャンスを活用してほしい。

買い物を楽しむも良し、食事を満喫するも良し。疲れが溜まった週末は、当店へふらりと立ち寄って、のんびりと気ままに時間を過ごしてみよう。猫ずくめの世界で、癒されること請け合いだ。（深澤知代）

営業時間…11時半～18時（16日までは17時までの営業）
ランチ…11時半～13時半
定休日…月～木曜

色鮮やかな猫達に囲まれながら一休みしよう

# 芸術の宝庫
## 弥生美術館
## 竹久夢二美術館

東京大学弥生門の正面に、控え目に掛けられた看板がある。ここが弥生美術館だ。その中に、**竹久夢二美術館**は併設されている。蔦の絡まるレンガ造りの外観が、レトロな雰囲気を醸し出していた。

弥生美術館は、挿絵画家の高畠華宵に魅了された鹿野琢見によって、昭和59年に創設された。そこに、平成2年に竹久夢二美術館も設置される。両館は渡り廊下で通じており、年4回・3ヶ月ごとに主題を変えて企画展を開催している。

案内ルートに従い、まずは弥生美術館から回ることにした。1階には、企画展に因み、当館近辺に居住していた挿絵画家の作品が展示されていた。室内に入ると真っ先に、地獄絵の着物を纏う女性の大きな屏風絵が目に付く。彼女は、橘小夢によって描かれた遊女の幻太夫である。遊郭があった根津において、彼女は奇抜な着物を着た遊女として有名だった。その格好と相反する端正な顔立ちに、思わず見入ってしまった。

2階では、当館の界隈にゆかりのある文学作品に関連した展示物を鑑賞出来る。特に大きく取り上げられていたのが、夏目漱石だ。千駄木や本郷が舞台の小説『三四郎』に登場する風景の写真が、本文のパネルと共に紹介されている。それらを照らし合わせながら眺めることで、物語の情景をリアルに感じられた。

そして最上階の3階へ。ここは、戦前の娯楽雑誌『少女画報』の表紙画で、少女達を魅了した高畠華宵の常設展だ。一歩足を踏み入れると、そこには繊細な筆遣いで描かれた、優美な女性の挿絵や水絵画がずらりと並んでいる。華やかな容貌を持つ女性の姿に、当時の読者は憧れを抱いていたのだろう。

続いて、大正ロマン溢れる竹久夢二美術館へ。彼は、センチメンタルな画風の女性画で人気を博した画家である。今回は、青年期に詩人を夢見て創作した詩歌集などが展示されていた。中でも有名なのが、彼の一夏の恋から生まれた『宵待草』の歌詞だ。相手との再会を待ち望む、切なる想いが詞中に込められている。その楽譜の表紙には、木に寄り掛かり誰かを待ち続ける女性が描かれている。それらは、夢二の淡い恋心を反映しているように感じられた。他にも彼が手掛けた絵本や俳句、思春期の感傷的な心情を綴った詩などが飾られている。そこから、夢二の感受性豊かな性格を実感出来た。

最後に忘れてはならないのが、ミュージアムショップだ。ここには展示作品の書籍や葉書など、お土産にぴったりなグッズが沢山ある。また、美術館に併設されたカフェ「港や」でくつろぐのもお勧めだ。珈琲やスイーツを味わえる喫茶室は、心地良い時間を提供してくれるに違いない。

一見するとこぢんまりとした印象の両館。だがそこには、この地域で過ごした文豪や芸術家の息吹を感じる空間が存在していた。新たな企画展を観に、何度も足を運びたくなる美術館であった。（増山詩織）

開館時間…10時～17時（入館は16時半迄）
休館日…月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
入館料…大学生800円

《梅雨の頃》　高畠華宵

# 絆を感じる散策をしよう

上野周辺の3つの地区を総称する「谷根千（やねせん）」。この名前の由来は、昨年終刊した**『谷中・根津・千駄木』**という地域雑誌である。今回、その編集に携わった、山崎範子氏にお話を伺うことが出来た。

まず、山崎氏に発行までの経緯を尋ねた。この雑誌は、昭和59年に母親仲間3人が創刊したものである。「子育てを始めてから、町をよく見るようになりました。そうすると、建て替えで昨日あった店や建物がなくなっていく、何とも寂しい変化に気付きました。これは、紙面に残した方が良いと考えたのです」と話してくれた。雑誌名が、その土地の代名詞として定着するのは稀なこと。また、谷中は台東区で、根津と千駄木は文京区と区まで違う。行政の管轄を越えて、生活圏を重視した視点は珍しい。「現在では、ガイドブック名に使われることも多くなっています。1つのエリアとして確立していることには驚きですね」と氏は語る。

名前のルーツに迫ったところで、谷根千とは一体どういう場所なのだろうか。山崎氏によると、元々谷中は寺町、根津は職人や商人の町、千駄木は御屋敷町という全く異なる特徴から、色々な面が見受けられる所だと言う。続いて「戦災や震災の被害が少なかったことで、都市計画が余り進みませんでした。そのためチェーン店が少なくて、こぢんまりとした店が多いのです」と答えてくれた。そしてそこに、谷根千の魅力があると話す。坂を登ったり道を曲がったりすると、その度に全く違う風景を眺められるのだそうだ。2時間程で歩けるこの狭い空間には、私達をほっこりと笑顔にさせてくれる場が詰まっている。

更に、古い建造物が残っているのは、住民の力だけではないと山崎氏は語った。「老朽化した家を恥じる人も、それが素敵と周りに褒められれば嬉しいものです。これらを残したら皆が楽しめるのでは。そんな機運が伝染して、年代物の建物が連なっているのでしょう」。街は、昔懐かしい物に価値を見出す来客の影響も受けて、発展していく。自分がその街の形成に少なからず影響していると思うと、また見方が変わるはずだ。

では、遊びに行く前に山崎氏に楽しみ方を伝授してもらおう。ここで氏は、予め到達点を1つだけ決めて散策する遊び方の例を挙げ「今日は旧安田楠雄邸に行くとします。そうしたら千駄木駅から来て目的地に寄って、最後は日暮里駅から帰ろうとか。行きと帰りの拠点を変えるのも面白いと思いますよ」と、この地ならではのユニークなプランを提案してくれた。これなら、新しい発見に心が弾むお出掛けとなりそうである。

他に、赴く場所のお勧めスポットに、太田道灌ゆかりの地である千駄木ふれあいの杜や谷中墓地、富士見坂を教えてもらった。これらは中央の地図に場所を記したので、是非行ってもらいたい。また、イベントに参加したい人には、一箱古本市が誂え向きだ。これは年2回、段ボール1箱分の古本を販売するもので、誰でも出店可能だそうだ。ゆったりとした通常の雰囲気の中を散歩するのも良いが、活気に溢れる催しを通して、地元の人達との交流を図るのも一興だろう。

谷根千には、来客との触れ合いを通して商売に喜びを感じる人が多いと山崎氏は言う。今後も、ここが人情で溢れる場であってほしいと願いを語ってくれた。あなたも慈愛に満ちた地域性を体感しに、この街へ出向いてみてはいかがだろうか。（加藤絵梨香）

# 大きな鳥居が目印
## 根津神社

地下鉄千代田線の根津駅から歩くこと5分。賑やかな大通りから外れた小道に、一際大きく目を引く鳥居がそびえ立っている。ここが東京十社の1つ、**根津神社**だ。

では、境内に入ってみよう。鳥居から参道を歩くと、最初に目に入ってくるのが楼門である。この門の大きさは、思わず見上げてしまう程だ。上部の柱などにある装飾が色鮮やかで、当社と同じ権現造りの、日光東照宮の陽明門が思い起こされる。門を通り抜けたら、左側にある手水舎に立ち寄ろう。ここで心を清めれば、清々しい気持ちで参拝に臨むことが出来る。

手を清めてから更に進むと、もう1つ門が見えてくる。これは唐門と呼ばれる社殿の正門だ。高さはないが、見事な彫刻が施されており、楼門とも遜色ない。更にこの門から200メートルに渡り、社を取り囲んでいるのが透塀である。この塀は徹底した基礎工事が行われており、300年経っても昔の姿を寸分狂わず今に留めている。創建当時の技術の高度さがうかがえることだろう。

こうして2つの門を抜けると、眼前に現れるのが根津神社の拝殿である。初めて見る人は、その華やかさに圧倒されることだろう。朱色の漆塗りが見事で、楼門や唐門と共に国の重要文化財に指定されているというのも頷ける。一見すると古さを感じさせないこの建築物であるが、その歴史は江戸時代に遡る。徳川綱吉が世継を定めた際に大造営が行われ、現在の形になったのだという。特に、社殿を唐門と透塀が取り囲む配置は斬新で「権現造りの傑作」とまで称されている。

以上がこの神社の本体を成すものであるが、他にも敷地内には興味深い建物がある。表参道から本殿に向かって左側に進んでみてほしい。ここには、奉納された赤い鳥居が幾重にも連なっており、入口から眺めると実に趣深い。1つ1つの背が低いため、最後まで辿り着くのはなかなか大変だ。しかし、潜り抜ける度に心が洗われるような、爽やかな気分を体感することが出来るはずである。

この鳥居の中間に位置するのが、乙女稲荷神社だ。祠は少し小高い所にあるため、そこから神社をよく見渡せる。尚、この場所はつつじ苑という場所の傍らにある。春には苑中の3000株が満開となり「つつじまつり」も行われるのだという。この時期は花を楽しむ人々が境内に溢れ、琴の演奏なども行われる。つつじの咲き乱れる頃、当社を訪れてみるのもお勧めだ。

かつて、森鴎外や夏目漱石もこの境内で物思いに耽ったという。参道を散歩しながら、彼らの足跡に思いを巡らしてみてはいかがだろうか。きっと、この地で連綿と続いてきた歴史を、肌で感じることが出来るに違いない。（大久保吉章）

都心にあることを忘れてしまう程静かな境内

## 助かる命にはリミットがあります。救命講習を受けましょう。

| 講習名 | 講習会場 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|
| 普通救命講習<br>9:00 ～ 12:00<br>教材費 1400 円 | 麹町消防署３階 | | 21日（土） | |
| | 麹町以外の会場 | 5日（月）<br>本所防災館<br>5階体育館<br>31日（土）<br>世田谷消防署 | 28日（土）<br>立川防災館<br>3階体育館 | 7日（火）<br>本所防災館<br>5階体育館<br>30日（木）<br>町田市<br>健康福祉会館<br>18日（土）<br>新宿消防署<br>戸塚出張所 |

公益財団法人 東京救急協会
講習受付　03-5276-0995
HPアドレス　http://www.teate.jp

『受講する際の注意事項』
受講当日は教材費と鉛筆、消しゴムを御持参ください。
服装は動きやすい服装、着脱しやすい靴でお越しください。

## 中国・チベット・モンゴル言語文化研修

2010年8月21日（土）～9月10日（金）［21日間］

**主催**：青海民族大学国際交流センター　**人数**：10名（未満の場合中止することもある）
**締め切り**：7月16日（金）まで　**内容**：語学学習、ホームステイ、文化体験など
**費用**：13.8万円　この料金には授業料と宿泊費と旅行費が含まれます。食事は旅行中（9月4日の昼食から9月8日の昼食まで）の三食ともこちらが負担しますが、それ以外は自己負担となります。宿泊は原則として三ツ星レベルで、二人一部屋となります。言語文化研修中は大学近くのホテルに宿泊します。
**問い合わせ**：青海省西寧市城東区八一中路3号　TEL＆FAX：0971－8807181
E-MAIL：amdowa_tashi@hotmail.com　タシ様（学習院大学OB）

---

# 記者の眼
## 互いに関わり合う勇気を持って

「赤ちゃんを抱かせてください」。そう言って28歳の女は、乳児を母親の目の届かない所に連れて行った。すると泣き声が聞こえてきたため、母親は慌てて我が子に駆け寄ると、その赤ん坊は両足を骨折していたのである。女は「幸せそうな親子が妬ましかった」と供述しているという。これは、最近特に驚かされたニュースである。

この報道は人々に、見知らぬ者への恐怖を植え付けたはずである。特に母親達にとって、好意的に近付いてきた同性が、赤ん坊に故意に危害を加えるという事実は、どれ程大きな影響を及ぼしたか計り知れない。国民全体がこのような事件を受けて、近寄ってくる人を恐れるようになったらどうなるか。自分が道に迷っても人に尋ねられない、迂闊に挨拶も出来ないような、殺伐とした社会になるかもしれない。

### 日本の将来を見据えて

だが、人はお互いに関わり合って、繋がり合って生きていく存在のはずだ。今傍らにいる恋人も友人も最初は皆、見ず知らずの他人であった。互いに出会い、逃げずに恐れずに近付き合ったから今がある。赤ん坊に暴行した女性も、寂しさや嫉妬心など負の感情を受け入れ、癒してくれる友人や家族がいれば、このような行為には至らなかったのではないだろうか。

この事件の一方、アルバイト先の遊園地では助け合いの精神を目にした。あるアトラクションに乗りたがる1人の男の子が、身長制限のため1人では乗車出来ないでいた。一緒に来ていた母親は下の子を見ていなければならず、困り果てている。すると、その場に居合わせた若いカップルが「一緒に乗りましょうか」と名乗り出たのだ。そのお陰で、男の子はその乗り物を満面の笑みで楽しむことが出来たのである。これは、2人の善意が親子に通じ、母親が相手を信用したからこそ成立した関係であろう。今の若者は昔の日本人程、密な隣人関係の中で育ってはいない。それでも、このカップルのように他者を思いやり、自ら働き掛けることが出来るのだ。その光景を見て「まだ大丈夫」と、ニュースに衝撃を受けていた私の心は救われた気がした。

階段でお年寄りが重い荷物を持っていたら上まで運んであげたり、公園で出会った子供達と遊んであげたりする。これは、もし私達が悪意を持っていたら、荷物を持って行ってしまうかもしれないし、子供は怪我をさせられてしまうかもしれない。つまり、遊園地の親子が行ったようにリスクを承知で、相手を信頼する必要があるのだ。かつて日本で御近所付き合いが重視され、活発だった頃、これらは日常であった。映画やテレビアニメで描かれている、古き良き時代における人と人との交流。留守中に子供を隣人に預けたり、公園で見ず知らずの人と遊んだりすることは、どこでも営まれていたのである。

信頼関係を築き得る世の中を完全に失わないために、自分から他者に近付いていく勇気を持つ。それも我々若者が、日本の未来を担う1つの方法ではないだろうか。

（フランス語圏文化学科3年　福田美緒）

# 老舗喫茶で一服しよう
## 羽二重団子

古くから神社や寺などの文化財に恵まれている下町。これからの季節、風情あるこの街に出向く人も多いのではないだろうか。そんな散歩の途中に、休憩場所としてお勧めしたいお店がある。JR日暮里駅近くにある、**芋坂羽二重団子**だ。今回は、JR山手線沿い、駅から歩いて5分の所にある本店へ伺った。

私達が普段口にしている団子とは、一味も二味も違う羽二重団子。まずは、その名前の由来について紹介しよう。今から遡ること191年前、文政2年に初代庄五郎が現在の日暮里近くの芋坂に、茶屋を開業したのが始まりである。王子街道を行く人々に「まるで肌触りの良い羽二重のような食感だ」と絶賛された。そしていつの間にか、そのまま菓子名となったという。この名物は、近くに住んでいた夏目漱石や正岡子規などの文豪達にも贔屓にされ、度々彼らの作品に登場した。このように人々から愛されてきた羽二重団子は、東京の代表的な和菓子として広く紹介されるようになった。

さて、団子と言えば丸い形をしているのが一般的であるが、当店のものは平たい形をしている。このことについて会社の代表取締役である澤野修一さんは「団子は昔から丸い形をしていて、神仏にお供えするものでした。それを庶民でも食べられるように平たくしたのが始まりです」と話してくださった。また、この形にすることで火が通りやすくなるというメリットもあるそうだ。更に、特徴的なのは形だけではない。材料や作り方にも独自のこだわりがある。素材は丁寧に自家製粉した米粉や、昔ながらの生醤油、渋を抜いたこし餡を使用するなど、徹底している。他に、焼き方も全国的に少なくなった「付け焼き」で作っているという。焼団子の生醤油の香ばしさは、この焼き方によるものだろう。

こうして出来上がった銘菓は、艶があり歯触りも良く、滑らかな味わいだ。焼団子のしょっぱさと餡団子の甘さがお互いに味を引き立てている。これとサイドメニューにある抹茶を一緒に頂くと、渋味と甘味が絶妙に合わさる。より一層、甘美な気分に浸りたいと思う人に提案したい組み合わせだ。

多くの人に好まれ、昔と変わらぬ伝統の味を受け継いできた羽二重団子。店内は控えめな照明で、落ち着いた雰囲気だ。また、ガラス越しには美しい日本庭園もあり、見晴らしが良い。江戸時代の書物や貴重な資料も展示されており、当時の面影を感じられ、非常に興味深い。そんな魅力的な店舗で甘味を味わえば、至福の一時を過ごすことが出来るだろう。（伊藤友喜）

営業時間…9時～17時
定休日…年中無休

伝統の味に舌鼓を打つ

# 空のように無限な芸術の世界
## SCAI THE BATHHOUSE

日暮里駅南口を出て寺を通り過ぎると、都会を感じさせない落ち着いた町並みが続く。そんな風情ある場所の中に、遠くからでも目に入る煙突がある。それを目印に進むと、SCAI THE BATHHOUSEに辿り着く。

この現代美術ギャラリーは、200年の歴史を持つ「柏湯」を改装したものである。外観は銭湯の面影をそのまま残しており、扉の造りは今では珍しい木製の横開け式だ。暖簾をくぐると、銭湯の営業当時に使用されていた下駄箱が出迎えてくれた。

かつて男湯と女湯の入り口だった扉の一方を開け、芸術の世界へと入る。すると、室内にはコンクリートの床と白い壁が広がっていた。そこは小学校の教室1部屋分くらいの広さであった。展示場の窓から差し込む光がより自然な色調を作り出し、作品を引き立てている。

今回は、現在話題のアニッシュ・カプーアの作品が飾られていた。彼は、次回のロンドン五輪のシンボルタワーをデザインするそうだ。それ程、今ホットな作家である。本展の中で代表的なものが、ステンレスのパーツを組み合わせて出来た作品だ。これは、大きな半球のミラー状のものだ。そして、ミラーに近付く程、映り込む自身の像が次第に変化していく。連なる鏡は、まさにカプーアの今後の無限な可能性を示しているようであった。他にも、チョークの粉で作られた、円錐の天辺が欠けたような作品がある。また、紫色の球体や、アクリル製の円柱の中に渦が巻いた彫刻などが展示されていた。どれも、彼が日本に向けて発信した最先端の現代美術だ。

画廊は1993年にオープンして以来、年に6回から7回展覧会を開いている。過去には、最先鋭の作家と言われる、日本人アーティストの村上隆や宮島達男などの作品も展示された。また、海外でも注目を集めている、アピチャッポン・ウィーラセタクンなどの作品も披露されたそうだ。このように、日本でまだ名の知られていない世界でも活躍する芸術家の作品を気軽に観られることが、本画廊の特徴である。

SCAI THE BATHHOUSEの近年の活動は、ギャラリー内の企画展だけではない。世界の芸術家と共に、六本木ヒルズにパブリックアートを作るプロジェクトなども行われた。そこから、ランドマークとなる蜘蛛の『ママン』などの作品が生み出されたのだ。

のどかな町並みの一角に佇むSCAI THE BATHHOUSE。ここでは、様々なジャンルの作品展が行われていた。各々の作家が創作した美術作品を鑑賞することで多くの刺激を受け、皆さんの感性がより磨かれることだろう。是非散歩がてらに本画廊に訪れて、芸術に触れて楽しんでみてはいかがだろうか。（緒方花穂里）

開館時間…12時～19時
休館日…日・月・祝日
入館料…無料

住宅街でも際立つ画廊

# 谷根千　下町　散歩

# 練り上げられた神秘
## 飴細工　吉原

一口に飴と言っても、様々な種類がある。普段から身近な存在であるが、今回は日本の伝統芸である飴細工の店に足を運んだ。

下町情緒溢れる通り「谷中銀座」から歩くこと10分。緩やかな団子坂を登ると、甘い香りがほんのりと立ち込める。その匂いを辿ると、ひっそりと**飴細工吉原**が佇んでいた。外装は落ち着いた雰囲気で、ガラス越しに幾つもの綺麗な飴が顔を覗かせている。店内に入ると、そこには様々な色の作品が並んでいた。それらの精巧さは、目を見張る程であった。趣向を凝らした贈答品を求める人や、ペットに似せた飴を作ってもらう人が、ここに足を運ぶ。

今では数少ない飴細工師である、店長の吉原孝洋さんは、細工のポイントとして「まず完成形をイメージしてから作り始めます。何故なら、水飴はすぐに固まってしまうので、素早く作らなければならないからです」と教えてくださった。そうしている間に吉原さんの手元では、光沢を放つ飴が見る間に練り上げられ、形作られていく。その様子はまるで、魔法が掛けられていくようである。そして、息つく間もなく和ばさみを用いて胴体や手足を形成していく。慎重かつ手際良く切り込みを入れる姿には、話し掛けるのが憚られる程の集中力が感じられた。その鬼気迫る様子に、職人の魂が垣間見られた。そして完成したのが、谷根千でマスコット的な存在となっている、猫である。今回は大学新聞社に因んで、新聞を読んでいる猫を作って頂いた。

完成品を乾かしている間、実際に作る際に使用している材料を触らせて頂いた。水飴は練り上げるのが難しい上にとても熱く、持つことさえ難しい。改めて飴細工師の凄さを知った。「この仕事の面白さは、作る工程にあります。そして味覚だけでなく触覚や視覚、嗅覚で作品を味わうところにもあるでしょう。食べたら跡形も残らないのが、儚さを象徴する日本文化を表しています」と魅力を語って頂いた。

この飴細工吉原には「あめぴょん」という可愛いうさぎのマスコットキャラクターがいる。何故谷根千という場所に店を構えているのに、敢えて猫ではないのだろうか。理由を聞くと「うさぎは師匠から最初に作り方を教えて頂いた動物であり、また僕の干支でもあるからです」とのこと。帰途に着く前に、当店オリジナルで制作している、あめぴょんのカンバッジを記念に購入した。

吉原は伝統芸である飴細工を通し、日本人の美的センスや、手先の器用さを今に伝えている。そしてその技術は、次代へ脈々と継承されていく。飴を五感で味わいながら、都邑の情緒を感じてみてはいかがだろうか。（川島旺洋）

営業時間…12時～19時
定休日…月・火曜
飴細工体験…毎週木曜日（要事前予約）

見る人に癒しを与える可愛い姿

# 土蔵と美術の巡り合い
## すぺーす小倉屋

JR日暮里駅から続く、日だまりの小道を歩くこと7分。寺の並ぶ通りに、3階建ての土蔵と商家が合わさる一軒家が見えてきた。ここが国の有形文化財として登録されている、**すぺーす小倉屋**だ。この建物は江戸時代の質屋で、当時の面影を色濃く残したまま、ミュージアムショップとして活用されている。

入り口で出迎えてくれたのは、館主の伊藤隆夫さん。主な展示物の作者である、伊藤としさんの御子息である。館内は漆喰造りのお陰で涼しい空気が流れており、25度近くあったこの日でも快適だ。その居心地の良さは、喧騒とは掛け離れた田舎の家屋のようだ。展示スペースは、1階と2階合わせて4部屋で構成される。それでは、特色ある部屋をいくつか紹介しよう。

まず覗いてみたのが、蔵を利用した展示空間だ。扉の前には、引き戸の仕組みや建物の改修の変遷が説明されている。室内に一歩踏み出すと、土蔵の床はギシギシと軋み、いかに年季が入っているかを体感出来る。画廊は柔らかな橙色の照明で照らされ、お面や歳時にまつわる切り絵、日本の風景画が飾られていた。切り絵の精緻さに感嘆したり、日本の原風景の絵画に思いを馳せたりと、感受性が豊かになりそうだ。これらは複数の作者による作品だが、どれも昭和の雰囲気を醸し出し、使い込まれた建物によく馴染んでいる。

更に、ここには明治期の風俗を模写した葉書、生活の知恵が詰まった茶壷や行灯も置かれていた。現代の家庭から消えてしまった骨董品は、百年程前の東京の姿や暮らし振りへの想像を掻き立たせてくれる。まるで大正時代にタイムスリップしたような気分だ。また、部屋の隅にある上へと続く階段は、立ち入り禁止の故か、蔵ならではの神秘的なムードを高めていた。

続いて観覧したのは、和室の空間。石細工や天然石、陶器など様々な芸術品が寄せ集められている。中でも興味深かったのは、現在でもガーデニング用に使われている、伝統的なオランダ木靴があったことだ。総じて和風な展示品が多いので、その異質さから目に留まるだろう。

最後に、別室の急な階段を上り2階へ行こう。先程の空間とは一遍して、洋風なギャラリーだ。東京湾の版画など淡色の作品が、心落ち着く場所を演出している。再び階下へ戻ると、私達の他に幾人かの来客者が訪れていた。人目を引く荘厳な佇まいと、無料という手軽さが、谷中散策者の好奇心を引き付けるようだ。

当館は江戸期の建物と多様なアートを融合させ、独特な芸術を生んでいる。そんな小粋な空間で、非日常に浸るのも良い。自由な雰囲気の個人経営ギャラリーで、江戸を感じる散歩は趣深かった。（早川結）

開館時間…10時～17時
休館日…月・火・水曜
入館料…無料

風情ある街中でも存在感のある漆黒の蔵

# 商売繁盛の秘訣とは
## 谷中銀座　夕やけだんだん

山手線の沿線であるが、**谷中銀座**という少し特異な場所がある。そこは、多くの人で賑わう街だ。今回は、この通りの魅力を存分に紹介しよう。

では早速、往来に入ってみよう。すると、有名人も度々訪れるコロッケ屋や、焼鳥屋などが数多く立ち並んでいた。どの店も味は勿論のことながら、何と言っても下町らしい独特の親近感のある雰囲気が素晴らしい。店員が威勢の良い声で宣伝をし、客同士も和気あいあいとしており、都会の魅力とはまた違った光景である。だがこの中にも、スーパーやチェーン店のような、最近になって出来たものも所々に見えた。しかし、やはり私達の気を誘ったのは風情があり、昭和の匂い漂う店舗の並びであった。

ところで、今の谷中銀座は以前、百姓地であったそうだ。戦後になると、いくつか店が登場し始めたが、外部の競合店の存在に苦しんだ。だが、それを乗り越えて今日に至っている。

そんな苦難の歴史もあり、商店街では様々な工夫を施している。その1つが「スタンプ500事業」だ。これは、商店で品物を買うと、その値段に応じてポイントが貰えるというサービスである。このような、客の心を上手く惹き付けるアイディアを日々、数多く打ち出しているのだ。更に、店の看板を大きくするなどして分かりやすくし、初めて来た人でも安心して歩けるように心掛けている。このように常に客の立場に立って、多様な取り組みを積極的に行っていることが、現在でも商店街の活気の源となっているのではないだろうか。

こうして、ぶらぶらと道なりに歩いていくと、**夕やけだんだん**に着いた。ここはその名の通り、夕焼けの見える絶景スポットである。その36段ある階段を上がり、通りを覗いてみると、屋根の上の猫がのんびりとしている姿があり、和やかな空間を作り出していた。また商店街の熱気がより伝わり、通りの入口から見るものとは違った風景が望まれた。

いくら学生といえども、毎日の多忙な生活に疲れている人も少なくないだろう。そんな時に谷中銀座に足を運べば、都会にある騒がしい環境を少しの間忘れることが出来る。あなたの心身もきっと休まるだろう。（飯村渉）

企画　加藤絵梨香
構成　菊岡真衣
レイアウト　福井麻斗
取材　飯村渉
伊藤友喜
大久保吉章
緒方花穂里
川島旺洋
早川結
深澤知代
深田杏
福田美緒
増山詩織
森田祥乃
山田晃

## CAMPUS GUIDE

●音楽部
「学習院輔仁会音楽部 大学女声合唱団 第11回定期演奏会」
日時：7月10日（土）
16時00分開場
16時30分開演
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター大ホール
料金：700円
内容：1st…女声合唱とピアノのための「愛の詩集」より「詩人の最後の歌」他
2nd…12のルーマニア民謡「Toca taca tia…」より
3rd…「In the beginning」「Psalm 23」他
様々な言語を用いた色彩豊かな演奏会です。管弦楽団にも出演して頂きます。是非お越し下さい。

●軽音楽部
「サウンド・ステップ」
日時：7月11日（日）
場所：江古田Buddy
料金：ドリンク代500円のみ
内容：中南米研究会との合同ライブです。ジャズやラテン、ポップス、メタルなど様々なジャンルをやります。毎年かなり盛り上がるイベントですので、お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

●スカイサウンズ　ジャズオーケストラ
「第41回YAMANO BIGBAND JAZZ CONTEST」
日時：8月14日（土）15日（日）
10時15分開場
11時00分開演
20時00分終演
（両日とも・予定）
場所：大宮ソニックシティ大ホール
料金：前売り券1800円
当日券　2000円
内容：学習院大学スカイサウンズジャズオーケストラは初日14日の2番目に演奏します！私達スカイはこのコンテストのためにアツく練習しています！是非お越し下さい！

## 今、地学研！！
## 会員募集中

地学研究会は気象・天文・地質の3班に分かれて活動中！
活動日：毎週火曜日 18:10～@西1-101
部室：黎明会館 520
HP　:http://chigakuken.s342.xrea.com/
連絡先：委員長 鵜飼秀樹 gardenia-jasminoides-._ellis@ezweb.ne.jp

学習院大学　英語英米文化学科・日本語日本文学科　講演会

## 『源氏物語』が世界文学になった時

講師：
Michael Emmerich氏
（Assistant Professor
University of California,Santa Barbara）
日時：2010年7月9日（金）
16:30～18:00（開場16:00）
場所：西5号館3階301教室
＊入場無料・予約不要
＊講演は日本語で行われます
＊終了後に懇親会を開催

［問い合わせ先］
学習院大学文学部 英語英米文化学科研究室
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 北2号館9階
TEL:03(3986)0221[ex.5780]/E-mail:eng-off@gakushuin.ac.jp

# 表彰台を飾れず
## 剣道部男子

6月13日、本学中高体育館にて、春季四大学剣道大会が行われた。各大学の全部員が集まって行ったこの試合、廻谷大和主将（営4）は「個人戦なので、全員が優勝を狙って試合に臨みます。表彰台を独占する気持ちで戦っていきたいですね」と語る。

初戦、2戦目と共に面での一本勝ちを決めた渡辺俊樹選手（済4）の第3戦目は、武蔵大・今井選手との一戦だった。稽古と同じような気持ちで試合に臨めたという渡辺選手は、冷静に相手が隙を見せるのを待つ。2分程の緊迫した打ち合いが続くが、互いに構え直すと均衡が崩れる。フェイントを交えた相手の面に、上手く小手を合わせて打つ。その後も面で一本を取り、二本勝ちを決めた。

続く4戦目は武蔵大・高橋選手との一戦。この試合も接戦となった。開始と同時に互いの探り合いが続く。このまま延長にもつれ込むかと思われたが、終了間際に油断が生じた。相手選手に詰め寄られると、剣先を上げてしまう。その隙に面を決められ、一本負けで終わる。渡辺選手は「相手のペースに合わせてしまいました」と敗因について語った。

渡辺選手が戦う横の試合場では第3戦目、諸井佑多選手（法3）と植松宥次選手（政2）の本学同士の試合が行われていた。隣のコートとは対照的に、この2人の一戦は激しい打ち合いが続く。だが、肝心の決定打が出ず、試合は延長へ。気の抜けない展開の中で、集中力は更に研ぎ澄まされていく。この延長戦、勝負が決まったのは一瞬だった。つば競り合いから戻り構え直すと、すかさず諸井選手が面を打つ。この一本が決まり、諸井選手が延長戦を制す。


植松選手（右）の引き面に対し諸井選手（左）は小手を狙う

続く4回戦の相手は成蹊大・井上選手。諸井選手は、連戦であることを全く感じさせない軽やかな動きで相手を攻め立てていく。しかし、なかなか相手を崩していくことが出来ずに、またもや延長を迎えてしまう。しばらく押しつ押されつの展開が続くが、諸井選手の中途半端に打った面に対し、相手に抜き胴を決められ、黒星を喫した。

大会を終えて、廻谷主将は「皆いつも通りの動きが出来ていました。しかし、勝負所をものに出来ませんでしたね」と感想を話す。また「9月の関東大会の団体戦で勝ち上がり、全国大会出場を目指して稽古に励んでいきたいです」とのコメントを残してくれた。練習の成果を遺憾なく発揮して、次は結果も残してほしい。（石井康祐）

---

# 強敵に反撃の狼煙
## アメリカンフットボール部

6月13日、アミノバイタルフィールドにて、甲南戦のアメフト競技が行われた。相手は格上であったが、本学は臆することなく先制点を獲得する。試合は両校が互いに競り合う激しい展開となり、勝利にはあと一歩及ばなかったものの、17－17で実りの多き引き分けとなった。

近年勢いに乗る本学は「威風堂々」をスローガンに掲げて鍛錬を重ねてきた。これには、強豪校の中で実力を発揮出来るようにとの思いが込められている。特に今回の甲南戦に対しては、シーズンの最重要試合として、並々ならぬ意気込みで臨む。

主将の川口尋也選手（済4）は「本学は昇格したばかりですが、2部に甘んじるつもりはありません」と語る。そこで、関西の強豪であり1部リーグに所属する甲南大からは、勝負所など、多くのことを学びたいとも言う。目指すは8年振りの勝利であるが、勝算は充分にあると、力強く言い切ってくれた。

甲南戦という独特な雰囲気に包まれた会場で、キックオフが行われる。先攻の本学は、巧緻なランプレーを多用しつつ果敢に攻撃を仕掛け、相手をじりじりと後退させていく。与安巧選手（法4）がボールを大きく進めるなどの活躍もあり、ゴールポストまであと僅かに詰め寄る。そんな相手が委縮した場面でのことだった。相手選手の隙を狙って飛び出した与安選手は、そのままエンドゾーンを駆け抜け、貴重な先制点を獲得する。その後、トライフォアポイントを確実に決め、この回で7点を稼ぐことに成功する。

怒濤の快進撃はこのまま続くと思われたが、これで引き下がる相手ではなかった。本学は第2クォーターの開始早々に攻撃権を奪い取られる。激しい攻防戦の後、本学の守備をかわした相手にタッチダウンを取られ、同点に追い付かれた。思わぬ失点に立ち尽くす選手達。以前の彼らならば流れが途絶えてしまうところだったというが、今回は違った。

奮起した本学は更に集中力を増して、相手と対峙する。その攻撃の序盤、与安選手が相手の防御線を突破した。突進を止めようと次々に飛び掛かる相手選手を振り解きつつ、最後には独走状態となった。そのままラインに飛び込み、7点を加算する。途端に大きな歓声が沸き起こり、当日1番の盛り上がりを見せる。

最も試合が動いたのは第4クォーターだった。相手方のゴール際まで詰めてから放ったボールはフィールドゴールとなり、3点を加える。しかし、相手の苛烈な攻撃に耐え切れず、7点を献上してしまう。更に、試合終了まで1分30秒程を残したところで、本学選手の反則が3つ相次いでしまう。そのため、本学は一気に危機に立たされる。観客が固唾を飲んで見守る中、相手の蹴り出したボールは無情にもゴールポストの間を擦り抜け、3点となる。同点に追い付かれた本学は、反撃する間もなく試合終了を迎え、17－17で引き分けとなった。

激しい接戦となった試合後、川口主将は「やはり上手く巻き返してきますね」と相手の実力を実感していた。それでも「集中力を切らさなかったことなど、この試合で得たものは大きいです」とも語る。格上の強豪校と互角に戦った本学。この貴重な経験を胸に、更なる進化を遂げることを期待したい。（関根一馬）


▲鋭い走りで相手のディフェンダーを圧倒しつつ、エンドラインに向かって疾走する与安選手（中央）

◀試合の勝利を誓い、気合いを入れてフィールドに散る選手達

---

# 3射差で惜敗
## 弓道部男子

6月6日、本学弓道場にて、四大戦の弓道競技が行われた。試合前に、高岡悠揮主将（哲3）は「昨年は2位に終わりましたが、今年こそは優勝を果たしたいです」と、力強く意気込みを述べてくれた。

四大戦の形式は、1人4射ずつ5回繰り返し、1人当たり20射放つ。各大学6人の合計を競って、全て的中すると120中になる。優勝を目指すためには、80中後半の的中数を目指していきたいところだ。

四大学の中、壱の立で、本学が登場した。初立で金子玄選手（済2）が皆中を見せ、良い流れを作る。後続の選手も実力を発揮し、6人合計で16中のスタートとなった。続く二立目では、全選手が安定して高い的中数を保った。中でも、吉川友洋選手（物2）は落ち着いて的を狙い、初立の勢いを保っていく。

だが、三立目に入ると集中力が途切れてしまう。松川晃大選手（心3）が1人高い的中数を見せるも、20射中15中に留まる。一方、成蹊大は6人中4人が皆中を記録して、徐々に本学との差を広げていく。次の四立目で、本学は選手を交代するなどして悪い流れを断ち切ろうとする。金子選手と松川選手は高い集中力を維持し、それぞれが皆中。だが、他の選手の調子が上向いてこない。四立目が終了した時点で、本学と成蹊大との事実上の一騎打ちとなる。


冷静に的を射っていく金子選手

勝負が懸かる最終立では好調な金子選手が順調に的を貫き、本学を勢い付かせた。高岡主将もそれに続く。最後は松川選手が三立目からの連続皆中で締め括る。しかし、成蹊大も一歩も引かずに、最後まで安定した的中数を保った。

最終結果は本学が79中、成蹊大82中、武蔵大61中、成城大55中で、成蹊大に一歩及ばず2位という結果に終わってしまう。試合後、高岡主将は「的中数にはある程度満足しています。ですが、各々に少しずつ甘さが出てしまいました。次からは普段持っている力を試合で出し切れるようにしたいです」と語ってくれた。この反省を糧にして、精神面の一層の充実を図ってほしい。（板垣亮平）

---

# 一時の緩み
## 水泳部水球部門

6月13日、早稲田大学所沢キャンパスにおいて、防衛大との関東学生リーグ戦が行われた。本学は、前日の成城大戦でレギュラー全員が得点を決め、波に乗ってこの試合に挑んだ。

その勢いを示すように、伊東大輝主将（独4）がセンターボールを奪取し、本学ボールで試合が始まる。そのまま攻勢に出るが、防衛大に一瞬の隙をつかれ、先制点を取られてしまう。出鼻を挫かれた格好になったが、すぐさま加藤亮二選手（数3）のゴールで同点に追い付く。この後、互いに1点ずつを加え、第1ピリオドを終える。

試合後に伊東主将が勝敗の分岐点であった、と振り返った第2ピリオド。次第に本学のミスが目立ち始め、相手のペースで試合が進む。何とかカウンターでシュートまで持ち込むも、バーに当たる不運に見舞われ、2－5で前半を折り返すことになった。

5分間のインターバルが終わり、後半開始の笛が鳴る。一進一退の攻防を繰り広げ、緊迫した雰囲気が漂う。そこで差が4点に広がってしまうが、本学は岡部匡成選手（済2）の得点で、再び3点差へと追い上げる。

後がない最終ピリオドでは、連続ゴールで1点差に詰め寄り、試合の流れを引き寄せる。このまま同点、逆転を狙うが、ここでも本学のミスが重なり、続けざまに失点してしまう。あと一歩というところまで迫るも、最終的に7－10での敗北に終わった。

今回の惜敗に、伊東主将は「自分達のプレーにミスが多かったことが敗因ですね。しっかりと反省し、次の東大戦こそ勝ちたいです」と唇を噛み締めながら語ってくれた。この悔しさを糧にして、次戦こそ水面に本学の喜色を映してくれるだろう。（石塚貴之）


ゴール前の味方にパスを出す岡部選手

---

## ロッカールーム

## ゴルフ部男子
### 頼 亮介 主将（法4）

# 努力で掴んだ大舞台

頼さんがゴルフを始めたのは、本学の高等科に在籍していた時である。ゴルフを趣味としている両親に影響されたそうだ。高校の監督でもある大学のOB会会長を慕い、大学でもゴルフ部に入部する。

初めて試合に出場したのは、1年生の5月に行われた春季リーグの団体戦だった。当時、本学はAからFまであるブロックの内、Dブロックに所属していた。結局、この試合は全体で5位という結果に終わる。「自分の成績は余り納得のいくものではありませんでした。大学に入学したばかりで、よく分からない内に試合が終わってしまいましたね」と、ほろ苦いデビュー戦を語った。

しかし、毎日練習を続けてきた彼は実力を伸ばしていき、ゴルフ部のエースへと成長していく。その地道な努力が実を結んだのは、3年生の時に出場した全日本学生選手権である。本学から出場するのは、なんと約40年振りの快挙だという。そして彼はこの大舞台で、120人中28位という見事な成績を残した。「選手にはプロの試合に出場した人もいて、その中でプレーするのはとても緊張しました。けれど、今まで欠かさず練習してきたから、この結果に繋がったと思います」と、頼さんはこの試合を振り返った。

プレーヤーとして素晴らしい実績を残してきた彼だが、初めは主将としても部員達を引っ張っていくのは大変だったようだ。彼が入部した時、上級生は3年生と4年生しかいなかったために、2年生の9月にして主将を任されることとなる。「まだ2年生で分からないことが多く、最初は本当に大変でした。主将として、上下関係をはっきりさせるという、今までの伝統を守っていかなければなりません。時には理不尽なことで、後輩を叱らなければならない時もありました」と、様々な苦労を語った。

ゴルフ部の活躍に貢献してきた彼も、今年の9月で引退となる。最後の目標を「今度出場する全日本アマチュア選手権で、全力を尽くそうと思います。また、9月の秋季リーグで優勝し、今いるCブロックからBブロックに上がって終わりたいです」と話した。部活動生活を最高の形で締め括るために、これらの目標を見事達成させてほしい。（内田哲郎）

---

## TOPICS

その他の試合結果

【バスケットボール部男子】▼四大戦▽対成城大 70－69 勝ち▽対武蔵大 69－72 負け▽対成蹊大 73－85 負け

【ソフトボール部男子】▼都1部リーグ入れ替え戦▽対明治大 19－1 勝ち

【柔道部】▼四大学柔道優勝大会新人戦▽優勝

【準硬式野球部】▼春季リーグ戦▽対東京農工大 2－0 勝ち▽対千葉大 3－5 負け▽対明治薬科大 1－2 負け

【ゴルフ部男子】▼関東大学春季Cブロック対抗戦▽3位

【ゴルフ部女子】▼関東大学春季Bブロック対抗戦▽3位

【馬術部】▼関東学生馬術争覇戦▽対東海大 勝ち▽対法政大 負け▽対慶応義塾大 負け

---

## デスクの片隅

先日、学習院大学新聞の縮刷版が発行された。これは、2000年の1月号から、2009年の7月号までが1冊の本にまとめられたものである▼以前、この縮刷版を通じて、弊社の卒業生に会う機会があった。そこで紙面を目にして当時を振り返る彼らの話は、尽きることがない。昔の些細な出来事について、いつまでも語り合っていた▼学生生活を費やして作り上げた新聞は、かつての社員の心に、アルバムに収まる写真よりも思い出を色濃く蘇らせる。まるで社員だけが共有出来る特別なタイムカプセルのようだ。次回発行される縮刷版には、私達の代が牽引した新聞が初めに載る。それを見た時、今の仲間とどんな言葉を交わすのだろうか▼そう未来へと想いを巡らせながら、共に記事の前で頭を悩ませる仲間に目をやる。いつか再会をした時、彼らと思い切り笑い合うために、悔いを残さないようにしたい。そして、私達の最後の編集作業を心から楽しもう。そっと、そんな誓いを心の中で立てた。（鯛）

---

今年、二つの新しい海外活動・海外研修のための奨励金・奨学金制度ができました！

### 学習院大学海外ボランティア活動奨励金

夏季休業中に海外でのボランティア活動に参加した学生が対象です。

○奨励金の内容
・奨励金額ー一人当たり１０万円を上限に支給
・採用予定人数ー最大１０名程度

○主な出願条件
・本学の正規課程に在籍している者
・夏季休業を利用して、海外において NGO、NPO 等の団体でボランティア活動を行った者

○出願期間
・9 月 27 日（月）～10　月 1 日（金）

### 学習院大学海外短期語学研修奨学金

夏季休業中に短期語学研修に参加した学生が対象です。

○奨学金の内容
・奨学金額ー一人当たり１０万円を上限に支給
・採用予定人数ー最大１００名程度

○主な出願条件
・本学の正規課程に在籍している者
・夏季休業を利用して、海外の大学附属又はそれに準じる語学学校で３週間以上の語学研修に参加した者

○出願期間
・１０月４日（月）～１０月８日（金）

☆詳細は募集要項でご確認ください。
☆募集要項・願書は G-Port からダウンロードできます。

問い合わせ先　国際交流センター

---

次の発行は9月です！
ご期待ください。

学習院大学新聞社は、年に８回発行を行っています。

学内情報や、役立つ知識満載の企画。そして体育会の試合結果速報など、学習院の「今」をどこよりも早くお届けします！

ぜひお手にとってご覧ください。

学習院大学新聞社
黎明会館３１６号室
E-mail : gakushuinpress@hotmail.com